

令和2年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	教育実践活動の充実	グローバル時代に必要 な資質・能力の育成の 観点から, 単式学級, 複式学級, 特別支援学 級が関係づいた教育 課程を編成し, 実施す る。	一人一人のよさ・持って いる力・かかわる力を柱 に自分から学び育つ子 どもを育成する。	本校の教育実践活動 に対する教職員の肯定 的評価が80%以上と なる。	学級を越えた横のつながりと 学年を越えた縦のつながりを 重視した教育活動が十分と は言えないができた。	B	教員どうしが目標実現のため に連携をとりチームとして機 能している。	B	安定した生活と心の成長を基 盤とした教育活動を教員間の 連携を図りつつ今後も継続し ていく。
	教育実践活動の特色 やよさの発信		複式教育や特別支援 教育など特色ある取組 を積極的に発信する。	研究会等やホームペ ージにより発信する。	複式座談会や研究会での発 信はできなかったが, 研究紀 要の発刊やホームページで の研究成果の発信はできた。	C	ニーズに合わせて発信に対し ては何ができるか, 工夫・検 討していく必要がある。	B	特色の一つである複式教育 については書籍の発刊を計 画している。
	総合的な学習の再構 築と複式教育の実践研 究		総合的な学習の時間 の内容に関して学校全 体を貫く柱を設定し, 実践を高める。	各学年における年間指 導計画を作成し, 実践 する中で改善を図る。	夏に本校の総合的な学習の 時間の内容について検討し, 「平和・命」を柱にすることに なった。	B	広島で育つ子どもたちに「平 和」を柱にすることはとても価 値のあるものととらえている。	B	これからも時代や社会からの 要請, 本校の実態を捉えつ つ教育課程の創造に努めて いく。
教育研究等	グローバル時代をきり ひらく資質・能力を育 むための教育研究の 推進	汎用的能力の育成の ために, 教育課程及び 学習指導法の開発を 実施し, 成果を発信す る。	教科等の特性や独自 性を生かし, 児童の学 びを豊かにする観点で 授業研究を進める。	研究授業や研修会を 年5回以上行い, 全て の教科で研究成果をま とめる。	校内での研究授業を7回, そ の他に自主的に授業を公開 し協議することも行った。	A	一人一人の教員が教師力や 授業力をつけるために前向き に取り組んでいる。	A	附属学校の使命である教育 実践研究のさらなる充実に努 め, タブレット端末導入に伴う 整備を確実に行う。
	インクルーシブ教育の 推進		インクルーシブ教育の 理解を深め, 授業研究 を通して研究を進め る。	東雲特有の環境を活か してインクルーシブ教 育の研修を年3回以上 行う。	低・中・高と学年部に分かれ てインクルーシブ教育の研究 を行うことができた。	B	単式・複式・特別支援のそれ ぞれの教員が互いの立場で 授業や子どもにとらえにつ いて考え, 交流ができてい る。	B	東雲小特有の環境を活か して, インクルーシブ教育の研 究をさらに充実させていく。
	東雲小・中学校での共 同研究体制の充実		グローバル時代をきり ひらく資質・能力を培 う教育の創造をテーマ に共同研究を進める。	小・中学校の教員が, 授業等を通して交流 し, 共通のテーマをも とに研究を進める。	教科・領域によっては大学と 共同して授業の協議したり, 研修会を開いたりするこ とができてい る。	B	各教科ごとで東雲中学校と連 携して研究を進め, ホーム ページでの発信ができた。	B	本校と東雲中学校の共同研 究を9年間の学びとして共通 理解を図り, さらに強化してい く。
社会連携・ 社会貢献活動等	広島県や近県の公立 学校との連携推進	多様な学級形態を有 する特色を活かした教 育研究の拠点校として 位置づける。	本校の研究会等への 参加や本校教員による 校内研修での指導助 言により連携を進める。	研究会の参加者数増 加, 校内研修の講師派 遣, 視察受け入れ, ホームページによる発 信等をより充実させる。	他校との関わりが難しい一年 となったが, オンラインでの研 修会参加など可能な範囲で 取り組むことができた。	B	連携や交流の場がもちにく いのは仕方がないが, 来年度か ら積極的に情報収集・交流 を行ってほしい。	B	本校の特色の一つである複 式教育に関するニーズに応 えられるよう計画的・集中的 に実践研究を行っていく。
	大学や他団体からの要 請への協力	教育研究への協力や 専門的な分野における 本校教員の派遣を積 極的に行う。	大学等の研究や調査, 視察や教員の現地研 修等の目的を吟味し, 積極的に協力する。	調査結果から得られた 知見を教育活動に還 元したり, 報告書に「本 校への示唆」の項目を 設け, 共有する。	目的を確認した上で大学や 他団体からの要請に可能な 限り応じることができた。	B	附属学校である以上, 可能な 限り大学の調査依頼や実地 研修の受け入れに協力して ほしい。	B	様々な教育団体や教育機関 と連携を図り, 本校の取組や 研究成果を発信する機会を 増やしていく。

注) 太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。

令和2年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・ 安全管理等	安全な環境の整備	学校教育の基盤となる健康, 安全, 安心の確保及び附属学校としての使命の遂行の観点から教員配置の適正化と教員研修の改善を図るとともに業務内容の整理による業務改善を行う。	児童のケガ防止や健康維持の観点から環境整備を行う。	学習環境の整備や安全点検による危険箇所の修繕・改修を行う。	コロナ対策の情報を収集し, 安全な学校生活ができるように配慮した。危険箇所の修繕や整備も迅速に行うことができた。	B	コロナ対策と学校での取組の両立させることの大変さは容易に想像できる。それでも工夫して乗り越えてほしい。	B	児童の健康面・安全面の視点から緊急性を考え, 優先順位をつけて計画的に修繕・改修を行う。
	教職員の健康管理の徹底		業務内容の整理や会議の精選により職務の効率化を図る。	勤務時間管理に基づき教員の健康管理に努める。	行事の見直しや会議のない日を設けるなど, 教員の業務負担を軽減するよう努めた。長時間勤務になりがちな教員とは個別に対話し, 意識向上が図れた。	A	学校職場での働き方改革は保護者の理解も重要になる。理解を得ながらできることから進めてほしい。	A	教員の健康管理や維持に留意しながら今後も業務内容の整理・効率化に努めていく。
教育実習	教育実習指導の充実	次世代型の教育実習指導を開発する。	大学との連携を図りながら次代を担う教師・社会人の育成をめざした教育実習指導を行う。	教育実習に関する教職員や実習生の肯定的評価が80%以上となる。	例年より1週間短い実習となったが, 教科指導と学級経営の両面を重点に置いた実習指導を行い, 実習生の満足度も90%得られた。	A	オンラインでの指導と実地での指導とを上手に使い分けて来年度以降も効率的に行うよう工夫していただきたい。	A	教科指導はもちろん, 児童理解を深める実習指導を充実させ, 教師になることへの希望が膨らむものにしていく。

注) 太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。